

山田市長が
～市民春まつり鼎談～
新 会長へ祭りの意気込みを聞く！



紺野澄雄さん
(市民春まつり協議会長)



▲鼎談の後、山田市長と紺野会長を囲み、ガッツポーズで祭りの成功を誓う実行委員会のメンバー

市長 「今後永く盛んに続けるように」ですか。まさに春まつりはその言葉のおかげで、これまで300年以上続けてこられたわけですね。

会長 そのとおりです。これだけ昔から続いているお祭りは、宮城県内でもそうありません。江戸時代から市民の皆さんが、形を変えながらも、誇りを持って春まつりをつけてきた結果だと考えています。現在の春まつりは、白石市、白石市自治会連合会、白石商工会議所、白石市観光協会、白石青年会議所の5団体で構成される「白石市民春まつり協議会」が主催し、その下に組織される「白石市民春まつり実行委員会」が企画・運営



阿部竜也さん
(市民春まつり実行委員長)

実行委員長 はい。「白石市民春
同年会が受け継ぐ
神輿渡御は大切な文化

などを行っています。私は協議会会長として、各構成団体の密度をさらに高め、盤石な組織体制を築いていきたいと考えています。

市長 盤石な組織体制の構築を期待しております。
企画・運営などを行っている実行委員会について、知らない市民の方もいらっしゃると思うので、実行委員長から簡単に説明していただけますでしょうか。

実行委員長 昨年
は名誉会長（市長）
大変お疲れさまでござ
いました。神明社
神輿渡御は、厄年明
けの同年会メンバー
で巡幸することにな

ところで、今年の神明社神輿渡御は、昭和51・52年生まれの同年会の皆さんですね。私も昨年同級生と一緒に巡幸させていただき、大変良い思い出となりました。

まつり実行委員会」は協議会各構成団体からの出向メンバーと有志メンバーから構成されています。現在は、若返りを図りながらも、上は70代、下は20代まで、老若男女、約50人のメンバーで、今後も子々孫々楽しい春まつりを続けていくため活動しています。

市長 最近では女性や若い実行委員の方も多く見られるようになりましたね。子々孫々春まつりを続けていくための工夫だったのですね。ますます実行委員会のメンバーが増えていくことを期待しています。

市長 そうですね。私も昨年体験して、あらためてすばらしい文化が白石にあると感じました。ぜひ今後も繋がってほしいですね。今年の春まつりも、思う存分楽しませていただきます。本日はありがとうございました。

今年は一條豪宏会長をはじめとする昭和51・52年生まれの同年会の皆さんです。厄年明けの同年会の方々が神輿を担ぐのは、約40年前から始まったと聞いています。このような厄年に絡んだ通過儀礼は、県内や東北においても大変珍しい文化であり、この文化を子々孫々と繋いでいくためにも、同年会の皆さんをサポートしていきたいと考えています。



▲恒例の「しろいし大行列」で、毎年先頭を務めるのが神明社神輿渡御。42歳の厄年が明けた同級生たちにより、その伝統は脈々と今日まで受け継がれています

テーマは「繋ぐ
みんな繋ぐ」

楽しいまつり

市長 白石市民春まつり協議会前会長の鈴木恒秋さんが退任され、本年度より紺野澄雄会長が新たに選任されました。紺野新会長に春まつりの意気込みをお聞きます。

歴史と伝統のある
春まつりは市民の誇り

会長 今年のテーマは「繋ぐ」みんなで繋ぐ、楽しいまつり」として、300年以上続いて来た春まつりを子々孫々繋いでいけるように、また、まつりが始まった目的である「市民に楽しんでもらう」ことも忘れずに運営をしていきたいと考えています。

春まつりは白石神明社さんの文献によると、片倉家5代目の片倉村休（体山）公の時代に始まったと伝わっています。江戸時代の白石城下は、農民や町民に対する規制が厳しかったようで、年に一度でも楽しいお祭りが行われることを望んでいたそうです。お許しを出された際、体山公は「今後、永く盛んに続けるように」との言葉を添えたと言われています。